

ぬまづ憲法9条の会

155号
2019年1月1日
事務局
神田健夫
921-7755

2018改憲発議をくい止めた
2019 草の根から
全力をあげ発議を止めよう

「(憲法審査会を妨害する)野党のケツをたたくのは維新の会にまかせていた方がいい」「これほど憲法改正を進める首相はなく、衆参両院で3分の2を確保し、野党の中にも憲法改正推進の塊がある。今は千載一遇のチャンス」(長島昭久議員)。12月の日本会議系集会で相次いだ、改憲を煽る発言です。

気脈を通じる公明党
北側・公明党憲法調査会長は、高村・自民党改憲推進本部最高顧問と水面下で調整を続けています。自民党の改憲案の提示は構わないとし、改憲のための国民投票改定案を「次の通常国会ですぐに採決でき

るといい」とも発言しています。「改憲に慎重」と言われる公明党も、自民党と気脈を通じているのです。

扉をこじあけると自民党
自民党は先の臨時国会では発議に踏み込みました。しかし、新年の通常国会で改憲論議の「扉をこじ開ける」と執念を燃やしています。

世論はどうか
「憲法改正、2020年施行」は、反対52・8%、賛成37・6%(共同通信12月15・16日調査)、「自民党改憲案の国会提示がでなかつた」のは「良かつた」55・4%(産経新聞12月11日調査)。人びとの強い警戒感を示し

ていると言えるでしょう。

夏の参院選では

九条の会ニュースは「全力を挙げて改憲発議を止めましょう。そのために300万署名は重要な運動です。さらにお互いの力を尽くしましょう。夏の参院選では改憲派に3分の2を絶対とらせないたたかいを実現しましょう」(編集後記)と、呼びかけています。

289の改憲本部設置

自民党は、全国289の小選挙区への「改憲推進本部」の設置を2018年中に達成したいとしています。2019年、草の根から改憲策動を包囲する正念場です。

防衛費の膨大な支出に抗議し、教育と社会保障への優先的な公的支出を求める声明、研究者ら

12月20日、シンヘボン青山学院大学教授ら大学教員、弁護士が標記の声明

を発表しました。角田由紀子弁護士(沼津在住、ぬまづ9条の会世話人)もその一人です。

政府がアメリカから莫大な額の兵器を購入する一方で、生活保護費や年金の切り下げ、貧弱な教育予算を放置することは、憲法の平和主義、人権保障だけではなく、国際人権規約に反すると訴えています。

主要先進国で最悪の財政状況にある日本が、アメリカの赤字解消のために借金を重ねて巨額の予算を費やすのは常軌を逸しているとは批判しています。

際限なく軍拡に走ることは、紛争の平和的解決を旨とする現代の国際法に合致せず危険な政策とも指摘します。

ぬまづ憲法9条の会

1月20日に総会
あなたもどうぞ
日時 1月20日(日)
13時30分

◇会場 沼津労政会館2階
2018年の取り組みを

振り返り、正念場、2019年の取り組みを話し合います。どなたでも参加できます。

成人式 1月13日に
リーフレット配布

中学校区単位で成人式が行われます。ぬまづの会、大平、香陵、原の会が、新成人へのお祝いと合わせ「戦争はイヤ、憲法9条を守り生かそう」とリーフレットを配ります。ご協力を

改憲を断念させよう
集会・パレード

日時 1月26日(土)
会場 沼津中央公園
集会13時30分(小雨決行)
パレード14時(雨天中止)
.....

(改憲を断念させよう)
スタンディング

1月12日・19日(土)
13時30分~14時15分
沼津駅南口井上靖碑前

辺野古土砂投入 海は泣いている 県民の心は埋められない 怒り広がる

12月14日、政府・防衛省は、辺野古の海に赤土の土砂を投入した。

沖縄県民は、県政史上最高の得票で、新基地建設反対の玉城デニー県知事を誕生させた。その僅か45日後の、暴挙である。

防衛省を「私人」と偽り、政府が「自作自演」して沖縄県の埋立承認撤回を踏みにじり、施工計画にもない琉球セメント棧橋から赤土を含む土砂を搬出し、土砂を投入した。無法の限り、違法の限りを尽くしての蛮行である。

那覇、9時、県庁前から出発のオール沖縄会議のバスに乗り辺野古へ。

投入時刻・午前11時、辺野古キャンプッシュワブ基地前の座り込みの隊列から、ため息が漏れ、涙を払いつつ抗議する魂の叫びが続いた。

午後0時30分、辺野古

の浜で抗議の集会が開かれた。強い陽射しだ。前知事夫人・翁長樹子（おながみきこ）さんが

「夫の意思を継いで」と語る。カヌー隊の女性が、海上保安庁の屈強な男性職員から暴力を振るわれながら抗議する日々をふれ、「辺野古・大浦の美（ちゅ）ら海を必ず守り抜きたい」と、澄んだ明るい声で語った姿が印象的だった。集会には千人が参加した。

カヌーの男女は、集会終了後も、浜からカヌーを漕ぎだし隊列を組んで、抗議のため工事現場に向かった。

これまで名護から本部港まで何度かバスに乗った。右側車窓には荒涼たる巨大な採石場が続く。姿を消した山もあったろう。

17日朝、名護市安和の琉球セメント採石工場、棧橋前の抗議活動に参加した。採石工場から棧橋までダンブで採石を運び込み、採石をベルトコンベアーで運搬

船に送り込む。

高齢の市民が抗議の声をあげていた。その傍らで、平和運動市民センターの山城博治議長が搬入の流れをチエックしていた。

那覇から辺野古へのオール沖縄のバス車中で、安倍晋三首相の祖父・戦犯岸信介氏の代から昵懇の関係にある山口の宇部興産、深く関係する琉球セメントについて説明があった。

新基地建設不可能 県民を諦めさせるため

沖縄県試算によれば、新基地建設は、期間は、13年を要し費用は2兆6千億円を必要とする。

大浦湾側にマヨネーズ状の超軟弱地盤があり、改良工事が必要である。その工事は県が承認しないだろう。

辺野古基地の賛否を問う沖縄県の県民投票は2月24日に実施される。これまでも県民は政府にノーを示してきた。

新基地建設は不可能なのだ。安倍首相は土砂投入で

県民を諦めさせようとしている。

14年、5000日以上も

だが、新基地建設ノーの辺野古浜座り込みは14年、5千日以上も続けられている。

県民はあきらめない。

静岡県知事 国を批判

12月18日、静岡県の川勝知事は、「辺野古埋立に反対する翁長知事の遺志を継ぎ、玉城知事が選ばれた。しかし、国は、その民意を全く無視している」

「ふらち、無法なことはしてはいけない」と述べ、国の姿勢を批判した。（朝日新聞）

ホワイトハウス請願

2月24日の県民投票まで辺野古工事を中止するよう求める請願が国際的にインターネットで取り組まれている。12月18日までに目標の10万人を超える

請願署名が集まった。

産経と 安倍内閣と

産経新聞 11月26日防衛大綱見直し◇安倍晋三首相は臆することなく、敵地攻撃能力の明記と防衛費の大幅増額を決断すべきだ。

防衛計画大綱 12月18日

米国製のF35ステルス戦闘機105機の追加購入を閣議決定する。決定済みの45機と合わせて147機に膨れ上がる。関連装備をあわせれば、1機200億円を超える。

*生活保護費減額、160億円。

しかも、追加のうち42機は短距離離陸・垂直着陸機F35Bで「いずも」型護衛艦を改修して搭載し、空母化する。
産経新聞は安倍自民党機関紙かのようなだ。

